

- 第15歌 テレマコス、エウマイオスを訪れる

[テレマコス](#)は[アテナ](#)に帰国するよう言われ、[スパルタ](#)を発ち、[ピュロス](#)で船に乗って、[イタカ](#)へ向かった。そのとき予言者[テオクリュメノス](#)という男を船に乗せた。アテナの指示に従い待伏せの求婚者を遠回りして避けた。翌朝テレマコスはイタカに着き、豚飼の農場に向かった。

内容

[アテナ](#)は[テレマコス](#)に帰国をうながす [アテナ](#)は[テレマコス](#)に帰国をすすめに[ラケダイモン](#)へやってきた。テレマコスは寝台に横になって眠れずにいた。アテナは言った。「テレマコスよ、今はもう帰国するべきです。屋敷の財産は求婚者たちに食いつぶされようとしており、そなたの母は親族から[エウリュマコス](#)に嫁ぐよう迫られている。それから求婚者がそなたを殺そうと待伏せしている。そなたは島々を遠く離れ夜中に船を進めなさい。そして[イタカ](#)へ着いたらまず豚飼のところへ行きなさい。そして豚飼を町へやって、[ペネロペ](#)にそなたの無事な帰還を伝えさせなさい。」

[テレマコス](#)と[メネラオス](#)別れを惜しむ [テレマコス](#)は[ペイシストラトス](#)を起こし帰国する意志を告げた。やがて朝になった。テレマコスは[メネラオス](#)に帰国させて頂きたいと言った。メネラオスはもちろんかまわないが贈物を用意したいのでしばらく待ってほしいと言った。テレマコスはただ早く帰りたいのだといった。メネラオスは丁度やってきた[エテオネウス](#)に食事を用意させ、混酒器や衣裳などの贈物を与えた。馬車にのって互いに別れを惜しんでいると一羽の鳥が飛んだ。

[ピュロス](#)を通りイタカへ向かう 馬車を夜まで走らせると[ディオクレス](#)の屋敷に着いてそこに一泊した。翌日も馬を走らせ、[ピュロス](#)に着いた。[テレマコス](#)は[ネストル](#)に会って歓待に引き止められるのは困るので、このまま船に乗って帰りたいと[ペイシストラトス](#)に言って、そこで別れた。彼が船の準備をしていると、予言者[テオクリュメノス](#)がやって来て船に乗せてほしいといったので、それを承諾した。その日は一日船を走らせ[イタカ](#)へと向かった。

[オデュッセウス](#)豚飼と食事をする 一方[オデュッセウス](#)と豚飼は食事をしていた。オデュッセウスは言った。「明日わしは物乞いをしに町へ行こうと思う。オデュッセウスの屋敷へ行き妃[ペネロペ](#)にも会い話をしてさしあげ、求婚者の間にも入ってみる積りだ」すると豚飼は言った。「とんでもない、あの乱暴な連中の間に入りたくないなど、死にたいというに等しい。ここに残られるが良い。誰もおぬしを迷惑がる者はおらん。」

[エウマイオス](#)の身の上話 [オデュッセウス](#)「流浪するものは、胃の腑のために様々の心労を忍ばねばならぬ。ところでオデュッセウス王の父や母はどうしておられるのか」
豚飼「奥方[アンティクレイア](#)は息子を心配するあまり亡くなられた。奥方はわしを我が子同様可愛がって育ててくださった方だった。父君[ラエルテス](#)はご存命だがすっかり老け込んでしまわれた」
オデュッセウス「おぬしはどのようにしてこの地へやってきたのか」
豚飼「わしの父は[シュリエ](#)の島の王[クテシオス](#)だった。[ポイニケ](#)人がこの島へやってきた時、父の屋敷の女中をたらしこんだ。一年たつてポイニケ人たちが去る時、女中は子供だったわしの手を引いてその船へ逃げ込んだ。女は船上で死んだ。わしは[イタカ](#)の島で売られ、[ラエルテス](#)王に買われた」
二人はそんなことを語り合っ、眠りについたが、まもなく夜が明けた。

テレマコス豚飼に会いに行く そのころテレマコスはイタカに到着し、食事をとった。船を町の方へ廻すよう指示し、テオクリュメノスはペイライオスの屋敷に案内された。テレマコスは豚飼の農場へ向かった。

関連

人名

(作成中)

地名

(作成中)

[前へ](#) ... [オデュッセイア](#) ... [次へ](#)